

博物館は、施設老朽化への抜本的対策の必要性の高まりと社会的なニーズの変化に対応するため、リニューアル推進に取り組んでおり、基本計画（案）について報告するもの。

1. リニューアル推進の考え方

（1）博物館の特長（強み）

- ① **魅力ある常設展示**…福岡の歴史文化を紹介し、多くの来場者を得ている。
【開館以来の総来場者数—約400万人】
- ② **待望される展覧会**…日本・世界の文化芸術に親しむ特別展を開催し、多くの来場者を迎えている。
【開館以来の総来場者数—約813万人】
- ③ **充実した教育普及**…学校へのお出前学習、修学旅行の受入れの充実。また、体験を通じて歴史文化に親しめる体験学習室は多くの人に利用されている。
【出前学習の実施校数（R4年度）—76校】・【体験学習室の来場者数（H24-R4年度）—約67万人】
- ④ **豊富な収蔵資料**…寄贈を含む、多くの文化財を博物館資料として収集保存し、福岡の歴史文化を伝える市民の財産を築いている。
【収蔵資料件数—192,438件】
- ⑤ **特色ある建物・外構の活用**…MICE関連企画や様々なイベントの舞台として活用されている。

（2）博物館の課題

- 【施設面】 ■ 老朽化した設備の全面更新 ■ 施設の劣化箇所や消耗した什器類の補強や更新
■ 機能の拡充 ■ 利用率の低い講座室等の機能刷新 ■ 利便性の向上
- 【事業面】 ■ 展示：過去—現在—未来をつなぐストーリー性やインバウンドへの訴求力の強化
■ 教育普及：多様な学びの機会提供の拡充
■ 収蔵資料：価値の共有や活用の推進

（3）リニューアル推進の基本方針

設備の更新をはじめとする大規模改修と運営体制の強化により、歴史文化の発信拠点、文化観光の拠点、学びと交流の拠点、文化を次世代へ継承する拠点としての機能向上を図り、福岡市が目指す都市像の実現に貢献する。

2. これからの博物館のビジョンとリニューアルの目標

博物館は、対外交流の最前線として挑戦を続け多様な文化を育んできた福岡の歴史から「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」をめざす現在と未来の姿を発信し、地域文化の担い手である市民、次世代を担う子どもたちや世界からの来訪者と共有・交流する役割を果たす。

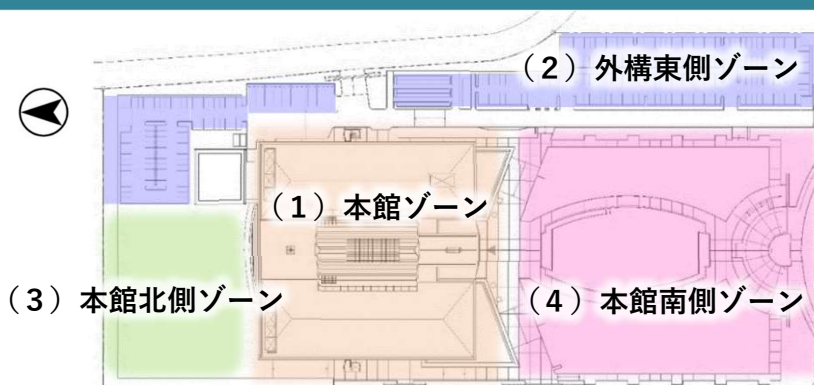
目標1 交流と多様性が創る都市の過去—現在—未来にむかうストーリーを発信する

目標2 すべての人の学び・楽しみを支え、人々の関わり合いを豊かにする

目標3 資産・資源をより有効に活用し、博物館とエリアの魅力を高める

3. 施設改修計画（案）の概要

施設のゾーニング



(1) 本館ゾーンのリニューアル要点 - 現行の建物の改修等 -

【諸室の改修・機能向上（主なもの）】

- ・ アジアに開かれた2000年都市の過去-現在-未来にむかうストーリーが体感できる展示空間（平面図①）
- ・ 子どもの多彩な学びの場となる体験学習室や、学年・学級単位で利用できるセミナー室等（平面図②）
- ・ 就学前の子どもが楽しく安心して過ごせるキッズスペース（平面図③）
- ・ 電源等の設備を備えたイベント空間にもなる玄関やロビー（平面図④）

【設備類の機能向上（主なもの）】

- ・ エレベーターやサンタリー等、利用者の多様性に配慮した設備を拡充する。
- ・ 設備機器等を高効率・高機能のものに更新し、施設の長寿命化と省エネルギー化を図る。
- ・ 災害等に対する高い危機管理機能を整備する。



- 展示のリニューアル
- 子どもに関する機能の充実
- 文化財を守る機能の強化
- 共用部分の交流機能の拡充

(2) 外構東側ゾーンのリニューアル要点 - 駐車場の改修等 -

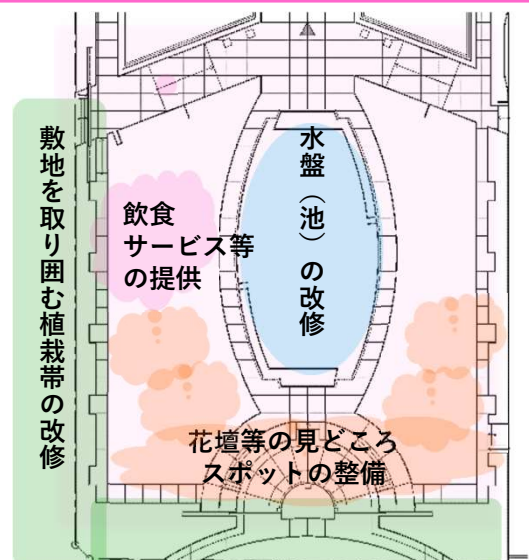
- ・ 狭い車路や駐車区画の改善等を実施する。
- ・ 周辺の駐車ニーズも含めた適切な収容台数を確保する。
- ・ 大型バスの駐車や乗降スペース等を整備する。
- ・ EVステーションの設置を検討する。

(3) 本館北側ゾーンのリニューアル要点 - 収蔵庫棟の増築等 -

- ・ 収蔵庫棟を増築し、博物館資料の保管スペースの不足を解消する。
- ・ 収蔵庫棟は、高い防災機能を備えるものとし、市民の財産である収蔵資料や地域の文化財を次世代に確実に継承する。

(4) 本館南側ゾーンのリニューアル要点 - 広場の改修 -

- ・ 地域に開かれた花と緑のオアシス空間となる広場へ改修する。
- ・ 水盤（池）を改修して広場を拡張し、「一人一花」花壇等の見どころを設ける。
- ・ 植栽を改修して敷地の開放感を高め、「サザエさん通り」や公園・図書館との一体感を出す。
- ・ 誰でも利用しやすい飲食サービス等を提供する。



4. 管理運営計画（案）の概要

- ・ 市は、文化の次世代への継承等、博物館の基本機能の確実な維持・向上を図る。
- ・ 民間活力の導入により、利用者サービスの向上、施設の有効活用の拡充等を図る。
- ・ 他都市の博物館運営を参考にし、今後、指定管理者制度の導入等も検討する。

市が担っていくもの	民間のノウハウ活用が期待できるもの
<ul style="list-style-type: none"> ● 博物館資料の収集・保管・調査研究 ● 収蔵資料や文化財等の適切な展示公開 ● 福岡の歴史文化に関する普及活動 ● 福岡の歴史文化に関する市民の活動への支援や大学等の多様な主体との連携・共創 	<ul style="list-style-type: none"> ● 維持管理業務の効率化 ● 行き届いた接遇等の利用者サービス ● 多彩な展覧会や催事の企画・運営 ● 集客向上に資するパブリシティ ● 的確なニーズ把握による飲食・物販等サービスの提供

5. 事業手法について

- ・ 竣工後、約35年を経た施設・設備の深刻な経年劣化への対応という緊急性と、財政負担の平準化等を勘案し、各ゾーン内の施設ごとに事業手法を検討した。
- ・ 周辺環境への影響を考慮し、工事による敷地の全面閉鎖を避けるため、ゾーンごとに工事期間を分散させることとした。
- ・ **収蔵庫棟の増築**は、整備要件が特殊で民間ノウハウを活用する余地が少ないので、市の直接整備方式で実施する。本館改修に先行して工事を完了させ、本館工事中に収蔵資料を保管する。
- ・ **広場の改修**は、市が直接整備方式で実施する。本館改修に先行して工事を完了させ、本館工事中に憩いの空間として開放する。
- ・ 本館ゾーン・外構東側ゾーンの**本館や駐車場**は、改修の規模が大きく、また、維持管理・運営は、民間ノウハウの活用により効率化やサービス向上が期待できる。本館、及び駐車場等の外構の改修は、財政負担の在り方も踏まえ、複数の事業手法を検討し、収蔵庫棟や広場の維持管理等も含めPFI-RO方式で実施するものとする。

施設	事業手法	
	改修の設計・施工	維持管理・運営
本館 駐車場等の外構等	PFI-RO方式 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本館や駐車場等の改修にかかる突出した支出を回避できる。 ・ 大幅な効率化、施設設備の性能保証が期待できる。 ・ 施設の効果的・効率的な活用が図られやすく、多様なニーズへの対応や開拓、新たな魅力の創出につながりやすい。 	
収蔵庫棟（増築）	直接整備方式	
広場	直接整備方式	

【参考】

検討した事業手法

- **直接整備方式**（従来型方式）…資金調達は公共が行い、施設の設計・工事・維持管理・運営を民間に分離分割発注する方式。
- **DBO方式**（Design Build Operate）…資金調達は公共が行い、施設の設計・工事・維持管理・運営を民間に一括発注する方式。
- **PFI-RO方式**（Priate Finance Initiative-Rehabillitate Operate）…民間事業者が資金を調達し、施設の設計・工事・維持管理・運営を一括して行う方式。

本館・駐車場等の外構にかかる改修および
施設全体の維持管理・運営にかかる各事業手法の比較

事業手法	直接整備方式	DBO方式	PFI-RO方式
発注方法	分離分割発注	設計・施工・維持管理・運営の一括発注	
資金調達	公共が行う（市債・一般財源）		民間が金融機関から借入
施設改修費	約86億円	約77億9,000万円	約78億5,000万円
管理運営費	約87億2,000万円	約83億1,000万円	約83億1,000万円
金利その他	約1億5,000万円	約1億3,000万円	約7億7,000万円
事業費総額	約174億7,000万円	約162億3,000万円	約169億3,000万円
市収入	約9億円	約9億円	約9億円
公共負担額	約165億7,000万円	約153億3,000万円	約160億3,000万円

各年次の支出イメージ



※事業費は本館・駐車場等の改修費と約15年間の運営費の概算。改修費は類似の施設や各自治体の発注状況を参考に算定。今後の社会状況の変化等により、増減の可能性はある。

6. 事業スケジュール

- 施設・設備の深刻な経年劣化への対応という緊急性をふまえ、スピード感をもって事業を推進する。

